

戦評用紙

大会名: 全日本実業団選手権

対戦チーム 大崎電気 対 湧永製菓

会場 平成 20 年 8 月 2.

戦評

大崎 ② 宮崎の2連続得点で、大崎が立ち上がり流れをつかむ。湧永も ② 東長濱らのシュートで得点をねらうが、相手ディフェンスやキーパーの好セーブに阻まれ、点差をつめられず、はがれを取り返せなかった。大崎は ② 宮崎を中心に ⑧ 内田のホストシュートと ④ 前田のロングシュート、速攻など、幅広い攻撃から得点を順調に重ね、16打は、2点のリードで前半を折り返した。

後半も大崎がリードを保ち、湧永が粘り強く追う展開が続いた。このまま結着がつくかと思われたが、残り4分のところからゲームが動く。湧永が2連続得点で1点差に詰め寄り、残り1分の時点で同点に追いついた。土壇場で涙をつかんだ湧永により、勝敗の予想が全くつかなくなる。最後はゲーム終了間際の大崎 ⑧ 内田のシュートで、大崎が勝利をとり取った。